

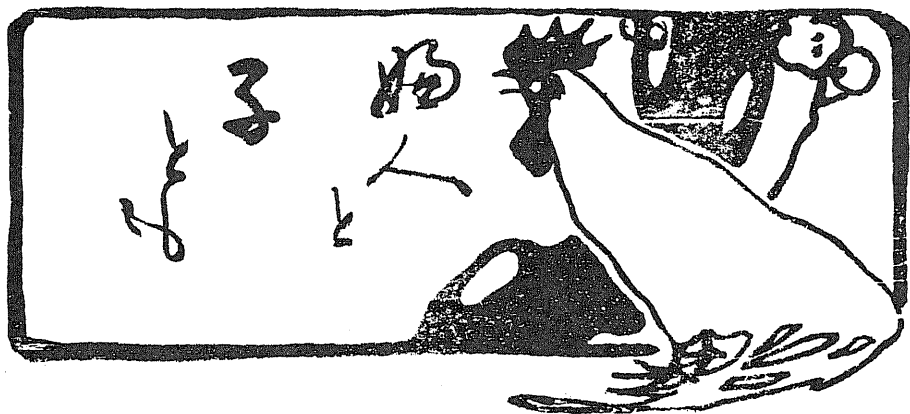
母 子 と 女

第 拾 卷
第 貳 號





或意味の英雄



第拾卷第二號



○ 眞木保臣

後れなば梅も櫻に劣るらむ魁けてこそ色も香もあれ

○ 親鸞上人

あすありと思ふ心の仇櫻夜半にあらしの吹かぬものかけ

○ 弘法大師

ものゝふの思ひたつ日の山紅葉錦衣ずして歸るものかは

○ 太田道灌

いそがすはぬれさらましを旅人の後より晴る野路の村雨

○ 北條時頼

いくたびか思ひ定めて變るらむ頼ひまじきは我心かな

○ 細川頼之

なき名そと人には云ひて止みなまし心のはいかに答へん

大人と子ども

文學士 倉橋惣三氏談

▲兩者の區別 近頃でこそ大人と子供が其性質上又體質上全然別種類に屬すべきものであると云ふ事が漸く理解つて來たが以前には兩者は全く同一のもので子供は單に大人の小さいものに過ぎない様に考へられて居た其の結果として大人と子供との間には取扱上何等の區別も無く子供を待遇するにも大人と同様只小さいからと云ふので多少取扱ひに手加減をする外子供を何處までも子供にして取扱ふ或は特別な方法や設備は更に考へられなかつたのである處が近頃に至つて種々の方面の研究から或る一定の裁然たる區別は無い迄も大人と子供との間には各共通ならぬ別種の特質のある事が明にされて來た、で此の兩者の區別を益々明に爲やうと云ふのが自分等の研究である其の區別は諸種の方面から種々の人が研究して居るが先づ大人と子供の相違點の主なものゝ次の三つである



▲體格(外形)の相違 オーベンハイエムと云ふ獨逸の醫者等も大人子供別種論者の一人だが身體の發育の比例の上から見ても大人は子供が其儘に發育したものと見られず兩者は全然別種に屬せしむべきものであると云ふ事を主張して居る生後一年の赤兒の頭と成熟した大人の頭とを比べると大人の頭は赤兒の凡そ二倍ある又大人の身長は赤兒の三倍腕は四倍足は五倍である若し大人は子供が其儘發達したもので子供を引延したのが大人であるとすれば身體の各部は同じ比例を以て發達すべきであるが事實は之と全く反して居る小児の頭は割合に大きく殆んど全身の三分の一の大きさがあるが大人のは全身の八分の一に過ぎない又頭の形も子供の時には概して扁平で眼から下の部分は大人に比して其の位置が甚だ下方にある頭は子供は割合に長い

▲發育割合の相違 大人と子供では身體の發育の割合が非常に違ふ、ドナルドソンの統計に依ると赤兒の生れた時の體重を三二〇〇瓦とすれば一歳の時には九九〇〇瓦 二歳の時には一二八〇〇

死に増加する、然しながら其増加の割合は年々減少して或る一定の年齢に達すると殆んど重量を増加せぬ、又身長に關する統計を見ても生後一年間は二五仙米の成長を見るが一歳から二歳になる時には一〇仙米に減じ更に十七歳から十八歳になる時分には二仙米位しか延びない、腦の重量の如きも七歳から八歳になる時分には六・三八パーセントの増加があるか十七歳位になると僅かに二パーセント位しか重量を増さぬ、所謂學齡時代は腦の重量が最も増加する時がある、以上述べた如く發育の割合の甚しく相違して居る所から見ても大人と子供とは全然別種類のものを見た方が宜い。

▲内部機關の相違
 ファイロルト氏の說に依ると赤兒の體重と骨の重さの比重は一六・〇七パーセントであるが大人になると二五・三五パーセントに減する筋肉の重量は之れに反して赤兒の一九・〇四パーセントに對し大人は四九・パーセントを有し其割合は増加して居る、肺の重量は大人は子供の其の約二十倍心臟の重量は一二・五倍、腦の

重量は三七・倍眼の重量は一・七倍で、重量増加の割合は身體の各機官に從つて各異つて居る
 ▲大人と子供の精神
 以上述べた諸點の相違から大人と子供の相違は明らかである、心理學上兩者の相違は生理學上に於ける程明確には解らないが子供から大人に至る精神の發達は身體の發達と同じく單に其儘の發達ではない、子供と大人は精神發達の比例を異にして居る子供の感情意思の發達は大人の其の發達とは全然違つて居る、決して子供の時に現はれた精神作用が大人になる迄連續するものでは無く精神作用の現はれるには自ら一定の時期があるのである、乳を吸ふ力、匍ふ力、歩く力、物を云ふ力は時期を追うて發達するもので人間の本能性は一時に現はれて來るものではない
 ▲青春期の前後
 所謂青春期の以前と以後に於ては人の心理作用は著しく異なるものである、青春期以前の子供の心理作用は主として外界の刺激を受け容れる働きをするが青春期以後に於ては寧ろ自發的となる傾きがある、即ち青春期前には認識力觀察力模倣力が著しく發達するに反し、青春期

後には専ら回想力構想力が發達するのである、又青春前期には人は概して個人的傾向を有つて居るが青春期後には甚しき社交性の發達を見るに至るもので所謂青春期を界限として人は大人と子供に區別される

▲本質の相違 以上述べた所によつて大人と子供の相違は單に程度の相違では無く本質の相違なる事が解る從つて大人に對する態度と子供に對する態度とでは程度を變へるばかりで無く其本質をも全然變じなければならぬ、又子供と大人は興味、記憶力作業力疲勞の状態を異にする故子供に對する勞働問題の如きも單に大人に課する勞働時間を短縮したと云ふ様な手加減に止まらず、教育上又法律上子供は飽く迄も子供として單獨に取扱つて貰ひ度い

▲子供物と大人物 子供と大人とは趣味も娛樂も全然異なるものであるから子供の見るべき諸種の興業物や玩具の如きは子供向きとして研究せらるべきであるのに多くは大人の趣味に合ふ様に作られてある、正月子供が弄ぶ羽子板の如きも何も大

人の趣味其も一種の狹斜趣味に相應して作られたもの計りだが子供用としては決して正當なものではない俳優の似顔の押繪等に對して普通の兒女は何等の趣味をも有つものではない、又「家族合せ」の如きも其趣好は甚だ面白いが醫者藪井竹庵とか會社員高樫木戸郎とか云ふ様な名は決して單純な子供の趣味に合ふもので無く、寧ろ大人の複雑した滑稽趣味洒落趣味に適ふものである其の他「百人一首」は勿論「いろは歌留多」の如きも決して子供向きの玩具として成功したものとは云へない、自分分は子供とは最も關係の深い玩具の如きものから先づ改良を施して全然大人の趣味を離れた子供向きの玩具の研究を望むのである

寒中の下着

寒中の下着として直接肌に着けるものでフランネルと木綿と執ちらが好からうかと問ふたならば十人十色で、皮膚につける着物は毛織物より絹織物や綿織物で適當と答へるでせう、處が近頃の醫學者の説は全く反對で、其吸容した汗水を容易に發散し、汗線物は汗を吸収し、收し易い汗水を長く皮膚に附けて置く事、汗を排せしめ、來る汚水を長く皮膚に附けて置く事、汗を排せしめ、防ぐもの事、毛織物は外套とか被布とかの様に、外に排せしめ、毛織物の寒氣と濕氣を包

米國の婦人と子ども

巖谷季雄氏談

▲豫想外に優しい 豫ねてアメリカと云ふ國は男も敵はぬまで女權の擴張した處と聞きもし又色の想像も下して居りました、處が往つて見れば思ひの外で、別段アメリカの婦人だからと云つても怖いことはいと云ふことを知つたのみか、なか／＼交際上手で、我々に向つても優しくして下さる婦人らしい婦人であることに感心しました一行(實業團)の中にはホテルに着いても、エレベートルの内に婦人が居れば一々脱帽しなければならぬと云ふは馬鹿／＼しいと云ふ人もありました、併しそれとても婦人の爲めに取るのではなく實際エレベートルの内では帽子を脱て居た方が心地が好い、都合が好いから脱ると思へば何のこともないのであります、又米國では電車の内では席を譲らない男子があると催促をされると聞いて居つたが、實際は爾でもありません、昔は知ず今はア

アメリカの婦人でも電車の内立つて居るものがいくらもある、婦人の立つて居る前で立派の紳士が平氣で新聞を讀んで居ます、して見ると日本でアメリカを想像して居る點は餘程考へ過しをして居るやうに思はれます

▲威張る婦人 尤も永い間には随分威張つた婦人にも出遇ひました、併し左う云ふ婦人は彼地でも敬尊されて居ないので、何故ならばそれは受付の女書記、電話係若くはホテルの掃除婦などで、是れは寧ろ威張る方が間違つて居るのですから米國婦人の標準とはなりません

▲ハイスchoolの設備 機會さへあれば學校を見ることが心掛けて居りましたので随分諸所の女學校を參觀しました、婦人のハイスchoolの設備の完全して居ることは今更申上ぐるまでもないが職員方がいかにも物馴れて參觀人をして快感を抱かしむる態度には今更ながら感心しました其折に例へば大きな女子大學と云ふやうな所では實驗室に只一人コック、勉強をして居る婦人やライブラリで六ヶ敷本を熱心に研究して居る女學生を見て

も別に珍らしくは思ひませんでしたが、意外に思つたのは、縁の下(彼地では巧みに床下が利用されて居る)の割烹室とか洗濯室とか裁縫室とか云ふ處に往つて見ると職員が特に參觀の我々に向つてこれもあれもと物珍らしさうに自慢をして見せる事です、妙だと思つて見ましたら、昨今は其方面に入學を申込み婦人が多く却て中流以下の婦人は學問を以てパンの口を探し或は學問はしないまでもタイプライター其他に職を求めますけれども世帯の苦勞のない婦人はそれ以上の方面に興味を以て進むのが昨今の流行であると云ふことを二三ヶ所で聞きました、これは必要から起つたことと他國のことながら誠に結構だと思つて見て來ました

▲少年裁判所 シカゴには子供の裁判所と云ふものがある、何う云ふことをするのかと云ふに悪少年を扱ふと同時に子供を虐待する親共を裁判します、で裁判所の附屬として親が養育することの出來ない悪少年を收容する感化院、又親があつてもその義務を盡されないと云ふ憐れな子女を收容す

る養育院のやうなもの迄皆一つ建物の内に整ふて居ります、丁度私の参つたときに、面白い裁判があるから見に往つたら何うかと言はれて所謂その法廷を傍聴しましたが場所は此會場位の室で上席の方に裁判官、左右に書記が居りますが検事も辯護士も見えませんが被告は直ぐに裁判官の面前に立つて居るので其裁判は如何に云ふ事件かといふに一人の貧乏人のお内儀さんが大酒飲みで家には十歳と七歳の男の兒のあるにも拘らず夫が稼いで來ると直に飲んで了つて二人の子供には少しも管はないそれを見兼ねて子供を預り母親には相當の制裁を加へやうと云ふ裁判でした見ると内儀さんは年頃四十四五無論穢い着物を着てよく西洋の繪に洗濯婆さんのして居る肩掛のやうな布を頬被りといつた風に咽喉の邊でダラリと結び顔は多分アルコール中毒なものでせう、男か女か分らぬ人相、鼻の先は赤く、前歯は一ツ二ツ脱落し、一字に結んだ大きな口は丁度お伽刺しに出る魔物の女とでも言ひたい有様其上に口を利いても呂律が廻はらない、處が其傍に居る無邪氣な二人の兒は

親に似ぬ可愛らしい様子、其傍には胡麻鹽頭の亭主、如何にも意氣地のなさうな態度で水洩をハンカチーフで拭きながら裁判官の訊問に會ひ、ヒョコ／＼と恐入つて居ります

▲女巡查 又この夫婦と子供との間に二十五六の氣高い様子の、服装は質素ですが一寸趣きのある装ひをした婦人が流暢な辯で辯じて居る、可愛らしい子供が二人、魔物のやうな内儀さん、意氣地のない亭主、そこに頗る權のある美人が立つて、美人一言、魔物一言、互に何か争つて居る、段々聞いて見ますと若い綺麗な氣高い婦人は原告、即ち巡查である女の巡查、私は頗る耳新しい感じがしましたから刑事巡查かと尋ねたところが先づ爾うだと云ふ、で、この婦人は何う云ふことをするのかと申すに常に貧民窟に立ち入つて親が子に對し、何う云ふ扱ひをするか子供の教育状態は何うかと云ふことを視察し注意も與へ異見もする、それでも効がなければ此裁判所の判決に託して此處に收容すると云ふ職を勤めるものだと云ふ事です、無論制服を着けて居る譯ではないから一寸見

ては判りませぬ殊に私は寡聞にして從來アメリカに爾う云ふ職務を持つ婦人のあることを知らなかつたものですから婦人が警察權にまで關係はつて働いて居る事を深く感心し同時に誠に結構なことだと思ひました、日本では斯う云ふ事件は、新聞紙の記事、或は世上の噂さが高くなつてから始めて警察の耳に入り、手段は其後に講せらるゝのであります、流石に米國の社會的事業の發達して居るのに感服しました話が枝葉に涉りましたが其裁判は女巡查が此二兒の親の状を見て幾度も注意したのが其時だけハイ／＼と言つて少しも聞き入れない斯様な親には此兒を育てさせて置かれぬから此所に收容しやうと云ふ酒飲みの内儀さんは我子であるから私が育てると云つて承知しない兒は流石に親子の情で父母の方に附いて家に歸らうと云ふ女巡查は還されぬと云ふ争ひであつたのです、結局は見ないで歸りました

▲船上の幼稚園 紐育に參つて大に羨しく感じたことはホドソンの河畔、日本で申すと築地の様な處に立派な市立病院が今や出來上らうとして居

ります、其病院の裏手の河岸に汚れた船が一艘繋いでありましたが、此處に我々共は引張り込まれました、何の見るべきものがあるのかと思つて居ると何ぞ圖らん此船こそ一種の美しい樂園でありました、一體此船は渡船の古手です、勿論日本の渡船とは違つて彼方のは餘程大きい、其上部が學校と幼稚園となつて居て、時は午後三時過ぎ、可愛らしい男の子や女の子が大勢並んで牛乳とカステラか何かを食べて居たのです、此は何ですかと尋ねますと病身の子供を預つて置く所、一つの小兒保養所とでも云ふべき處であるとの事でした、近頃細育には結核性の病氣が非常に流行して居てこれは個人の不幸のみならず社會の迷惑になると云ふのだ、爾う云ふ種類の病身の子供を此處に預る、しかし、只預るのでは子供は體育はそれで補つて行かれるにしても大切の學齡時期を仇に過して其勉強を遅れさせると云ふので午前午後とも二時間宛勉強をさせ、普通の兒童に比して僅かに一二年遅れるのみで不完全なる體育を成るべく充分に發達させる事にしてあります、甲板は幼

稚園の運動場、又陸上には廣い花壇もあつて空氣も宜しう御座ますから子供は皆血色うるはしくこれが病身かと思ふほどであります、斯くてこそ子供との仕合、社會の仕合、近所迷惑の恐れもなく非常に好いと私は深く羨しく感じました、残念なのは此船上の幼稚園は一種の慈善事業であるかそれとも相當の謝儀を取つて居るのかその邊を聞き漏して參つた事です

▲日本少年の出迎 それから西の方サンデヤゴに參りますとラジャヨカー譯して神智協會と云ふのがあります一の學校でも宗教でもないが、世界同胞主義を標榜して立つて居るので會長はミセスデングリットと云ふなか、傑い婦人、一寸見るとクインビクトリヤの様な風采の方ですが此會の創立に係る學校で又面白いものを澤山示されました、此サンデヤゴは太平洋に面した土地で、浦賀とか三崎とか云ふやうな、温い景色の佳い處、其處に宏莊な恰も繪のやうな建物が聳え周圍には畑やら花壇やらが廣々として實に羨しい程、設備の届いた學校ですが私共一行が往くと七ツ八ツの可

愛らしい女の子が大勢頭には青い羽で造つた冠のやうなものを被り、生花で造つた徽章には日章旗を差して迎へて呉る

▲テツヲ君 聞く所によると此子は元横須賀の軍人の子でステブソンと云ふ西洋人の養子に貫はれたのをデングー女史が更に教育を託されて居るのださうです、私は此説を聞き世界同胞主義で學時代から大學までの教育を享けやうとしつゝある此子は今に如何なる人物に成るかと思つて居る事を頗る楽しく思つて居ます、デングリー女史の歓迎演説はいかにも流暢なもので丁度女優が舞臺で長い白を云つて居るのを聞く様な心地がしました、兎に角此處では殆ど感心するものばかり種々の物を見聞し同時に一々感心しましたが茲に一つ感心の出来ないことがありました、それは幼い三、四ツの日本で申せば幼稚園時代の子供が日本の小學二年生位の暗記暗誦問答をすらすらとやつて居た事であり、僅かに三、四ツの小兒が世界の地圖を指せば印度、亞弗利加、亞細亞など、少しも間違はず日本の首都はと云へば東京と答へ其

他英吉利、佛蘭西何處の首都でも明に答へる、只滑稽であつたのは亞米利加の首都はと聞かれて華盛頓と答へたものが辛うじて一人あつた事でしたその癖世界各國の旗も知つて居る、私共の知らない殖民地の旗まで知つて居る、大陽の七色、これに就て急拵への御馳走でありませうが、それにしても驚ではありませんか、何もこれだけの考案もので斯様に幼少の時から詰込んだ處が果して其割合に人間が豪くなるか如何か、併し日本の昨今の教育は少しく平易になり過て居る一般知識の低い子供を標準として教科書も作られて居る、それ故に都會の子供と田舎の子供と比べて都會の子供は學校程やさしいものはないと云ふやうに思つて居るといつて又僅か三四歳の小兒を捕へてそれほどに六ヶ敷いことを教へる必要があるか何うか、此學校は創業後まだ年が浅くて卒業生の成績を他と比較する事は出来ませんでしたが兎に角勉強さへすれば何でも出来ると云ふ仕込方ですから私共は之を見て唯だ驚いて了つたのであります

白痴の教育

井石亮一氏談

▲五百人に一人の割合 白痴は先天性と後天性の二種に分れ先天性は誕生の時既に白痴となつて生れ、後天性は生後病氣其他の原因で白痴となるのです、その中先天性のものは教育に依つて腦の缺點や其發達の不充分なる所を補ひ常人に復する事が出來ますが後天性のものは腦脊髓膜炎等の病氣の爲に腦の組織が全然變更して居るのですから是は到底常人に復する事が出來ません、此白痴は五百人に一人といふ割合になつて居りますから、日本全國五千萬人とすると十萬人の白痴が居る譯ですが、この不幸な者に新生面を開かせ不生産的の者を變じて生産的にしやうといふのが白痴教育の目的なのです。

▲白痴の原因 先天性のもの、原因は父母の遠祖の精神の異状(殊に癲癩白痴)癲癩、神經疾患、酒精中毒、梅毒結核、腺病性、血族結婚、早婚、

父母の老衰、母の懷妊中の貧血、饑餓、腹部の打撲、外傷、恐懼、憂慮の精神感動等が重なるもの又は生時間の原因として早産、難産、墮産に於ける頭部損傷、狹骨盤の頭部壓迫、初生兒假死、鉗子分娩等であり、誕生後の原因は小兒急病、癲癩、腦髓腦膜の疾患、外傷、チフス、猩紅熱、麻疹、天然痘、百日咳、日射病等で生後三四年間は精神に障害を來し稀には六七年に及んで猶其害を蒙つて居る者もあります。

▲生來の白痴 これは一口に言ふと發育の足らない者即ち誕生前に腦の中樞を害された者で生れて後哺乳作用すら出來ず、又一定の時期に達しても普通感覺視覺共に不完全な爲め身體は小さく血液の循環は弱く體温は通常健康體より二三度低く概して身體が虛弱なものです、是れは運動其他の方法に依つて強健になると教育の効が見えて來ます此種の白痴は癲癩、白痴、其他神經性疾患に罹つたもの、遺傳を受けた者で其他未子、早産、老衰若くは圓熟しない者の子に多く、又懷妊中母の心勞、驚愕等も其の素因となるのです。

▲小頭性白痴 これは字の示す如く頭の小さな者で前額狭く頂きが尖り、後頭骨の扁平な為め小脳が比較的發達して大脳の發達を妨げられた者で其の多くは言語は發しないが感覺鋭く手足の如きも敏捷で木登りの巧い事猿以上の者もあります俗に猿の生變りだと云ふのは是れですが其の他の點はといふと衣食に對する自己の要求を満たすの外は凡て無意識に過ぎぬのです。

▲水腫性白痴 俗に鉢破れと云ふもので腦水腫の爲めに精神の發達を妨げられるのですこれは胎兒中に發する事もありますが其の多くは生後數年間中に發するので其の特徵とも見るべきは性質甚だ溫良柔順ではあるが之と同時に舉止が頗る魯鈍で敢爲の氣なく常に靜止して居ります此種の兒童は結核性、腺病性の者が多いやうです。

▲急痲性白痴 俗にヒキツケと稱する者で是れが爲めに中樞神經を害し遂に白痴に至る者もありますから家庭に於て最も注意しなければなりません其の癡癡は誕生後直に發する者もあり或は生後數年の後に發する者もあり其の先天性に屬する者は

神經性の兩親、ヒステリー性の母、癲癇又は精神に障礙ある兩親、大酒家、虛弱の親には癲癇の子が多く又嬰兒の中には頭部の打撲損傷、不消化物の過食内臟蟲の存在、高度の音響、精神感動した母の乳、傳染病の初期若しくは其經過中に於けるが如き血液内の中毒物許が一定の運動神經中樞に刺戟を與へた爲めに發し稍や成長した者は不適當な精神の感動、甚だしき恐怖心を起すべき怪談過度の精神興奮等も癲癇を起す素因をなすものです、此の急痲性の白痴は白痴中百分の十五、一割五分を占めて居るのですから家庭では例の怪談など小兒の恐怖を増させないやうにして欲しいものです。

▲癲癇性白痴 癲癇は必ずしも白痴ではない偉人奈翁の如きも癲癇性であつたさうです、此疾の爲めに精神を害された兒童の血統を辿つて見ると、必ず其祖先中に神經性疾患に罹つたものゝある事を發見します此癲癇が餘り頻繁に發すると折角を取り込んだ知識も消え失せて遂に白痴に陥り、又甚だ粗暴不規律となつて道徳的感情の頗る鈍る事

があります。

▲痲痺性白痴

特徴は半身若くは一局部が痲痺して足はよろ／＼となり語調は不明となつて常に涎を流すのです、原因は胎兒の中に發する事もありますが多くは生後二三月乃至十二ヶ月位の小兒に多く稀には三歳以上の小兒にも發する事があります、發病の始めは人事不省となり半身若くは一局部に痲痺を來たす者ですが是れは其腦の一部に萎縮若くは缺損を來す等と原因するのです。

▲外傷性白痴

高くから落ちたり物で撲つたりするのは多く精神障礙の原因となりますが此外分娩時に於ける狹骨盤又は壓迫震動等も其原因の一となりまして其精神上に及ぶ損害は從分永く續く者もあり或は歲月を経過すると共に次第に消滅して常人に復する事もあり兩親は其子の精神發育の悪いのを見て原因を其の子の守の罪に歸さうとする傾かあります、實際に於ての外傷性白痴は至つて少なく兩親が外傷だと思つて居る白痴に付て精細に調べて見ると却て兩親に神經性血統、又は胎兒中に於て母の不注意があつたに基く事を發

見します。

▲焮衝性白痴

これは腦に焮衝を起してそれが爲めに白痴となつた者の稱ですが腦膜炎、猩紅熱、麻疹、百日咳、室扶斯等が焮衝の因となつて精神發達の障礙を來し遂に白痴となるのです、此種の白痴は病後數年を経て始めて其知力の減退するのを見るもので始めは音聲も略ぼ明瞭であつたものが漸次不明となり或は遂に啞者となるものもあります。

▲腦硬化性白痴

腦の硬く變ずる病で屍體を解剖して始めて發見される病です此種の白痴は父母の結核、神經性素質、神經性疾患、酒毒、胎兒中の母の損傷、小兒假死、誕生後の損傷等が往々その原因となり生後數日にして發する事もありますが先づ一年位にして起るのが多く或は二三歳の時に發生する事もあります其の發作は痙攣運動障礙等に始まり終に全く痴呆狀に陥つて言語、歩行共に緩漫となり目に映じ耳に響くものに對しても少しも注意を向けないやうになるのです。

▲梅毒生白痴

遺傳性の梅毒の爲めに腦及び神經

等を侵するので三歳乃至九歳頃までは普通の腦力を保つて居ても第二生齒期の頃になると頭痛、眼球震顫癩癩若くは弛緩状態に陥り身體衰弱知力減退して全く痴呆狀に陥り多くは四五年を出でずして死ぬるものです。

▲主なる原因 右に類別した病別及び原因に依つて見ますと白痴となる主なる原因には

- 第一 精神病の血統ある事
 - 第二 結核性の血統ある事
 - 第三 父母の飲酒家たる事
 - 第四 懐妊中父母の疾患精神感動
 - 第五 早婚及老衰の子
- 以上は誕生前の原因ですが誕生後の原因としては
- 第一 小兒の急病
 - 第二 癩癩其他腦病
 - 第三 感動したる母乳
 - 第四 外傷
- 等でありますが、白痴の最も多いのは長男か又は老衰者の末子で長男の多きは早婚の弊であります又老衰の子は體質が弱く是迄充分なる發育を遂ぐる事が出来ません次に多きは私生兒ですが近年は

難産の結果白痴になる者の數が大分多くなつたやうです一般に身體の虚弱に陥つたものと又今迄は難産の結果胎兒を分解して取揚げ又は母子共に死去したるものも醫術の進歩の結果母も子も生存するに至つた代り其子は母の苦痛の刺戟を受け又は出産の際の手術が神經に障礙を來す爲めだと思ひます。

▲野獸と同居の小兒 白痴の原因や病別は略々述べましたが扱て之れを教育する事、即ち白痴教育の始まつた事について一寸變つた話があります、西曆千八百年の頃中部佛國の森林の中に野獸と共に住んで居た一兒童のある事が發見され早速取押へて見ますと小兒は全くの裸體で鼻で食物の好惡を嗅ぎ分け水を飲むにも獸のやうに舌で舐め四肢で匍ひ歩き齒を露出して抵抗し少しも言語を發しないなど其所爲少しも獸類と異つて居りませんでしたが念の爲め之に衣類を纏はせて見ると忽ちにズタ／＼に引裂いて始終逃げやう／＼として居りますので人々も其の處置に窮し又何うかして此兒童を教育してやらうとしましたが遂に不成功に終りました、之が白痴教育の始めて千八百五十年頃

から段々成功するやうになつたのです。

▲教育的分類で、教育上から白痴を見ますと、**弱生のもの**と**興奮性のもの**との二つに分れます。又この**懦弱生**と**興奮性**と何れも**白痴の度**合に依つて

極度と**低度**の二つに分つのが宜しいやうです。現に**教育**した**甲斐**の顯はれるのは**低度**の者に限り極

度の白痴に對しては寧ろ**出來ない相談**であります。▲**極度の白痴**この中の**懦弱性の者**は言語や動作

で**自分の意志**を他人に訴へる事が**出來ない**のみか目の前にある**食物**を口へ運びさへすれば**空腹**が治

るといふ事さへ知らぬ者もありモツと甚しいのになつと**食物**を嚙んで**飲み下す**事さへ**出來ぬ**ものも

あります斯ういふのになると一々**嘔**まで**食物**を押し込んでやらねばなりません、又**興奮性の者**は常に

何んの**意味**もないので**叫び立て**支體を動かして騒ぎ立て**食物**と他の物の**見境**を失つて口に入つた

ものは何んでも**飲み込み**ます現に或る**十二歳**の子供が**鉛百六十八大釘**四本、**金の指環**一個を吞みそ

れで**少しも異状**を呈さなかつた事もありません。是等の**兒童**は**到底教化**の**出來ない**ものです。

▲**低度の白痴**前記のものとは異つて多少の**知覺**を有し且つ其**懦弱生**の者は**普通**に見る**啞者**であつて常に**唾液**を流し一種の**叫聲**に依つて自己の**要求**を人に訴へますが**歩行**の際には**足取り**が定まらず**精神**が茫然として**普通**の人の**睡つて居る**のと**略ぼ**同じですが**何うか**する**と亂暴**して**取鎮め方**に困る事

もあり**又興奮性の者**は**目的**もなく**笑ひ**、**叫び**躍り廻つて**殆んど狂人**かと思はれる程ですが**是等の白痴**は**教育**さへすれば或る程度までは**進歩**します。

▲**教育の方法**元來**白痴**は或る**機能**の**大層**機敏な者と**痴鈍**な者とありまして或る者は**砂糖**と**キニー**

ネの區別が判らないかと思ふと中には**舌で色**さへも判明する者が**あります**から其**教育の方法**も**千差**

萬別です詰る**所興奮性の者**は之を導いて**組織的**の者となし同時に**機能**だけ偏して**發達**しないやうに**圖**るのです、又**懦弱性の者**は勤めて**精神**を興

奮させ何に**好き**かといふ事をよく探つて**段々**と糸を曳くやうに**至機能**の**發達**を計るのです例へば**興奮性破壊的**の者なら**先づ**或る者を**相立て**は破

壞

壞

壞

壞

壞させ斯うして幾度となく繰り返す中には當人も其れを壞すのが面白くなつて來て終には教師と一緒に組立て猶進んでは獨りて組立てる様に、後には破壞的の嗜好が變つて組織となり又懦弱性の者なら種々な方法で耳の感じや支體の感じを惹起させる工風をなし是れを其嗜好に投じて段々注意を引くやうにするのです。

▲教育の效果 此種の白痴は親に對しても兄弟に對しても情といふものがありませす現に瀧野川學園に入園した一兒童の前記に如く入園の當時は親を戀しくも思はず友達の情もありませんでしたが入園後二年間を経て他の兒童の許へ其母が尋ねて來たのを見て自分にも母が有るかと思ね果ては非常に戀しがつて暑中休暇の來るのを待ち詫びて居りました。

來客に對する時

高等女子師範學校教授

佐方しつ子氏談

來客の應對には其の人を嬉ばせ樂ません事か肝要であるから不快を感じさせぬ爲めには客室を綺麗にして常に裝飾等を心掛け置く

可べきである。

日本の客室では床や棚の裝飾が主であるから季節々々に從て掛物を替へ花置物等を整へ掃除を行届く様にして棚にも相應な書物手函類の美術品を飾り客を待つ間も目を嬉ばせるやうにする。

又主人(婦人に就て言ふ)は立派なものには及ばぬ迄も人に接する事の能きだけ髪や衣服を整頓して置いて不時の來客をも餘り永く待たせぬやうにする。

客に出すものは冬ならば第一に火鉢煙草盆茶それから菓子といふ順序にして懸るに待遇し器物は立派なものには及ばぬが火鉢なら灰や塵埃の附かぬやうに心持よくして火も消えぬやう、分量も適度に灰にも塊の無きやう注意する事である煙草盆の火は殊に此の注意が肝要である常より切炭の相當の大ききものを作つて置いて灰を善く馴らすと二三時間は消えないものだ。

茶器なども茶渣や缺欠なきやう洗ひ方に氣を着ける又食器類と一所に洗ふと生臭い事などがある、菓子器も同様に綺麗にして蒸菓子なら一人の客に三つか五つ場合を見て紙へ載せて出すも可い。

菓子を出したら又茶を出して先のを下げる丁寧にすれば十五分位に二度も三度も茶を替へる必要がある、親しい間柄なら茶盆を置いて主人自ら入れて勤めるも可い。

談話は餘り親密でない間では景色の話新聞雜誌に關したる題目から始めて其内に話に花が咲き興味を湧いて來る。若し又困る場合には寫真や繪葉書帳等を持つて來て話の補助とするのも可い。總て主人として客を嬉ばせ樂しませるやうに仕向けるのが應對の好い處である。(讀賣)

虚弱兒童の鑑定

伊藤醫學博士談

兒童身體の虚弱であるか強壯であるかを検するに
は通常胸圍、身長、體重等の大小に因つて定めま
すが、併し此等三者の關係により必しも標準とし
難い事が御座います、即ち身體の大小は人種によ
り遺傳的素質によりて相違がある又三者中の或者
は標準以上に發育して居ても或者が標準以下に在
るなどで一概に決し難い場合が多くあるのです、
今此等の標準と其相互の關係等に就いて少し御話
して見たいと思ひます▲先づ第一に胸圍の方から
申しますと、胸圍と身長との關係は初生兒は胸圍
が身長の三分の二位ありて其から段々身長が延び
るに連れて二分の一以下になります、舊來では胸
圍が身長の二分の一以上なければ強壯と云へない
と云ふ事に成つて居ましたが其は大人に於て云ふ
べき事で、小供の胸圍は身長の二分の一迄は無い
ものです、其で此に簡單なる鑑定法を申します

と、第一初生兒は頭の周圍が胸圍よりも大ですが
段々一年五六ヶ月位になると胸圍の方が大きくな
るものです、即ち胸圍が頭の周圍より大であつた
だら先づ強壯と見られるのです、次に右と左との
助骨の中間即ち溝落の所が銳角(三十度位)にな
つて居るのは其胸圍が狭小なので潤大なのは鈍角
に開いて居なくてはなりません、第三に身長の大
なる割に體重の軽いのは胸圍の狭小なる證據にな
ります▲此等胸圍の狭小なのは即ち肺の活量が
少いと云ふ證據であつて呼吸器病例へば肺病など
に罹り易い素質があると云つてよいのです、活量
計と云ふものがあつて息を吐き込むのは彼は遣り
方に大變巧拙がありますから餘り當にはなりません
ん▲次に胸圍が狭小でなくして尙活量の少いのが
あります、其は胸廓の形に依るので其一は「漏斗
胸」と云つて中央が凹んで漏斗の様になつて居
ます其二是胸骨の左右が落ちて中部が凸出して居
るので之を「鳩胸」と申します、第三は「帶溝」と申
しまして胸の中央よりや下部が横に溝を成して居
居て一見帶を締めた痕跡の様に見えるのですが併

し實は帶の痕跡ではないのです、第四は「尙僂病」と云つて骨の軟かな病氣ですが、其が爲めに各肋骨の中部が肥大隆起し胸の左右に珠數を垂れな様に連なつて居ます、之を「尙僂病的念珠」と云ひます此病氣は「富山縣の奇病」と云つて有名ですが必しも富山縣下には限りません▲前に頭の大さと胸の周圍の比較の事を申しましたが頭が例外に大いのは其は別です、其大きいのは二様ありますが一は腦水質と云つて腦に水分を含んだので所謂福助頭です、此種の頭を持つて居る者は通常暗愚な者ですが中には却つて伶俐な者があります、頼朝などが即ち其方です、二は例の尙僂病の爲めに頭が大いので四個の頭骨が皆肥大して頭が四角形になつて居ます而して四個の頭骨が隆起した爲め頂體に十字形を劃して凹んで居ます、之を「尙僂病性十字頭」或は「四角頭」などと申します、而して之は唯骨のみの病氣でなく體質に屬する病氣ですから身體全體が弱いのです次に身長に就て申しますと、身長が標準以上に大であつても胸圍と體重とが之に伴はないで小であ

る時は尙虛弱となるのです、然るに身長短かいのに二種あつて、其内胸は人並にあつて唯手足のみ短いのは強弱に關係しません、是は智力にも障礙なく随分高位高官に在る人で此種の人もある者です、但尙僂病の爲めに手足の短いのは不可せんに又二種あつて一は年を取つても尙身體容貌智力共皆幼年者の通りであり一は身體のみ小さくて容貌は年と共に増せて居ますが此等は共に不可せんと▲次には體重の事に就て申しますが、體重が標準より著しく大なる時は却つて弱體なのであります、即ち脂肪過多症の爲めに肥滿して居るのや又病氣の爲めに腫れて居るのなどが此部類です▲此に精密なる圖があります、西洋東洋共兒童十一歳迄は身長も體重も共に男の方が勝つて居ますが十一歳から十五歳迄は女の方が發育し勝ち更に十五歳以後は再び男の方が勝つと云ふのが普通です▲更に男女初生兒の時から十五歳に至る各年齢の身長一仙米突に對する體重の標準、瓦は左の通りです

▲男女身長一仙米突に對する

體重の標準瓦

生時	男	女	男	女
滿一年	三三	二七	一六瓦	一六瓦
二	三三	二七	一七	一七
三	三三	二七	一八	一八
四	三三	二七	一九	一九
五	三三	二七	二〇	二〇
六	三三	二七	二一	二一
七	三三	二七	二二	二二

以上は凡て體格に就いて申しましたが更に體質に就いて申しますと、胸圍、身長、體重共標準以上にあるならば必ず強壯と云へるがと申しますのに必しもさうと限りません、即ち體質の如何に依つて虛弱と鑑定せざるを得ないのであるのです、然るに體質の事は一寸素人に分り兼ねる事が多いのです、此に素人にも分る、即ち肉眼で見ただけで容易に鑑定の出來る事を二三條條程述べて見ませう▲先づ皮膚に就いて申しますと乾燥であつてはならぬ、多少の潤氣があつて光澤がなくはなりません、次に貧血であつてはなりません、次に一定の緊張があつて固くなくてはなりません、軟

かいのは不可ません、但女は多少柔かいのは已むを得ません、次に強壯者は皮膚に毛がなく、在つても甚だ薄いのです、尤胸毛などは別ですが、背中の上部や兩腕の外部に面した方に一帶の長い毛が生へて居るのは多くは虚弱腺病質の徴候です、勿論除外例は凡ての原則に伴ふものですが私が實驗しました範圍では先づ例外は無かつたのです▲次に口に就いて申しますと、齶齒の齶齒は別に強弱の徴候になりませんが、齒の生へ替らないう前、即ち幼稚園時代の上齒の四枚(就中中央の二枚)が根元の方から腐蝕して終には齒莖の所から折れて齒の根ばかり残るのは不可ません、是亦多くは腺病質です▲其から齒の尖端の方から中凹みに腐蝕するのは遺傳性微毒質だと申しますが是は必しもさうと限らぬ様ですが、併し少くとも不健康の徴候とは見られます▲次に眠つた時に口を開いて鼾聲を漏すのは扁桃腺肥大の症候で之が慢性的になつて居るのは同じく腺病質の徴候です▲耳下腺の少しの肥大は小學兒童には先づ普通で巨細に檢すれば腫れてない者が先づ十分の一以下位し

かありませんが、顎下腺の少しく大きく（少くとも銀杏大以上に）肥大して且つ固いのはやはり腺病質の徴候です

子供の感冒豫防

瀨川醫學博士談

▲朝夕の外出は禁物 近頃大分小児の氣管支病に罹る者が多くなつたが既に罹つた者は手後れせぬやう醫療を受くるが肝腎であるし一般家庭の注意としては感冒に罹らぬ豫防手當が何寄の必要である生後五六ヶ月位の幼兒ならば戸外に出さずに置くがよろしい二三歳から六七歳に至る小兒でも朝早く夕景頃からは外出は禁物である夏時ならば兎も角も此寒い冬空に朝の空氣が藥になるなどとは却つて六七時乃至八九時頃の冷たい空氣に當るの工合が良いから故らに幼兒を戸外に負ひ出すには及ばない七八歳の健全な小兒でも午前十一時か

午後二時に至る暖かい時間を除く前後は外に無用である

▲衣服癢具等の注意 何でも澤山に重ね着さすのが小児の爲めになると心得て襦袢に綿入の三四枚

を着せて其の上に股引を穿かせ襟巻をさせると云

ふ風は強ち珍らしくない甚だしいのは寝かして置

く時迄が矢張り股引綿入に身を包んで其れが小兒

の爲めに親切であると思つて居る父母もある吾輩

の家では小児の日中着は襦袢一枚綿入二枚とし寒

い時には綿入羽織を重ねて遣り寝衣としては冬は

フランネルの襦袢一枚夏は木綿の單衣一枚と決め

てある一體東京附近の氣候では小兒に襟巻襦袢

股引等の必要はない寝衣を二枚も三枚も纏はせて

厚い重い夜具の中に寝かすのは安眠にも害になり

夜中蒲團を轉げ出す虞れもあつて却て感冒に罹ら

せる機會を作ることがある寝衣も夜具も成る可く

暖い身軽い物を用ゐて小兒の安眠に便するが好

い夜間股引足袋の儘に寝かして置くが如きは以て

の外なる誤りである未だ負はれて居る小兒などは

餘り餘計に着物を着せてある爲め下ろして負着半

纏を取るとぼつ／＼いきを立てゝるのも見受けるが彼様なのは感胃に取つては頗る危険千萬である大人小兒を問はず暖い所から寒い所に急に變ずる場合は感胃に罹り易いのである

▲入浴後守る可き注意 小兒を毎日／＼風呂に入る

れる習慣の家庭もあるが身體の清潔を保つて遣る爲めなら其様な必要はない吾輩の家では子供の入浴は一週二回とし腰巻は入浴の都度即ち一週二回洗濯したのと取替へ襦袢は一週一回同じ洗濯したのと着替へさせて居るが之れで立派に清潔も保もたれ健康も保もたれて居る未だ襦袢を用ゐて居る時々股間腰部などを汚くする時代でも湯に入れた軟い布片類で丁寧に拭つて遣り湿氣を悉皆と取つて置けば必ずしも毎日／＼湯に入らず共よろしい入浴後は俄かに體熱が蒸發するのであるから動もすれば感胃に罹り易い小兒の爲には寢る前に入浴させるのが一番安全であるが若しその他に入浴させた場合は綿入れの一枚位餘計に着せて置かぬと好けない小兒を銭湯へ連れて行く家庭に於ては浴後歸宅迄の間に充分なる注意を拂ひ自身の温か

さに取り紛れて小兒に薄着をさせたり風に當てたりしてはならないし又何れの場合を問はず湯を使はせた時は湿氣を悉皆と拭き取ることを忘れてはならぬ

母親への戒め

白山生

子を育て、こそ知れ親の恩と誰れも云ふて居る通り一人育てる苦心と云ふものは並大抵のことではない。それもまふと首尾よく育て上げた人はやれ／＼と重荷を下ろして扱て是からは樂隱居と極め込むことも出来ませうけれど夫れが一つ遣りそこなつて飛んでもない出来損ひを造り上げる様にはめになつては其苦しさを然こそと思はれる。世の親たる人は戒めに戒めて百年の悔を遺さぬ様心掛けねばならぬことである。次に記すのは或悪書生の母親なる人の懺悔話、座ろに御氣の毒に堪えぬところもあるが考へれば強ち豫防の出来

ないことでもないと思ふ。見る人如何な感ぜらるゝにや
 世間へ面目がありませんから夫れ以來一度も外出
 は致しません、良人から叱られる迄もなく無論私
 の不行届からでムいますから決して彼兒が悪いの
 でなく私が悪い爲だと思つて居ます、兎角始めて
 の子で今年十八になる迄可愛いくと思ふ計りで
 只今でも何となく警察署のお眼違ひではないか杯
 といふやうな愚痴な考へが浮びますのが第一私の
 心が宜しくないと思つて居ますけれども扱、
 怎しても其麼やうな心が除けません、妙なお話を致
 しますが彼兒は三ツ四ツの頃から人並外れた伶俐
 な性でして人様も不思議な程にお思になる事が度
 度ありました、と云のが抑々親の誤でムませ
 う此頃も私の學校に居た當時の先生がお見えにな
 りまして、「お前に限らず親といふものは兎角我子
 の得點許りに眼を着けて缺點といふものは一つも
 知らぬ」と仰有いましたが成る程今から考へます
 と彼兒の伶俐な所、他所のお子さんよりも早く智
 惠のつく事や、物覺へのよい事許りが眼に着いて

あの無法な亂暴な大膽な所杯は寧ろ良人迄が悦ん
 で助長致させた位でムいます、是が第一の誤りで
 して、恰ど彼兒が十四の時に大病ひを致しました
 が、其時に一層彼兒が我儘が嵩んで來まして、思
 ひ立つた事は必ず決行せんければ許かないやうに
 成たものですから、私も大變心配致しまして病中
 だけは成るべく云ふやうに致して置きました、
 其多病氣が治つてからでも習慣で我儘を徹さうと
 する氣味が見えますので、それから以後は嚴しく
 之を矯めやうと致しました、それが第二の誤りで、
 矯めやうとして施しました私の手段は却つて彼兒
 に猜疑根性を起させるやうに成て、それが原因で
 彼兒恐ろしい悪事をするやうになつたのでムいま
 す、何にしても相當の家の兒の母として最もお耻
 しい次第でムいますから今度の弟を立派に成長さ
 せて此耻を雪がうと思つて居ります云々
 病氣の爲めに子供を悪くしたと云ふことは然もあ
 らんと思はれるたとひ積極的に之を悪くしない迄
 も折角賤けた日頃の良習慣を一朝にして破つて
 しまふことは吾等の日常經驗する所である。之を

思ふと病児の看護と云ふことは中々容易のことではない。一方に病氣其もの、看護をすると共に一方には後來の教育上發達上に害を残さない様にしなければならぬ、病氣の看護をすると共に教育上の善後策をも講じなければならぬ。是は舊臘のことであるが次の様な記事が報知新聞紙上に現れた。子供の病氣が子供を悪くし易いものであると云ふ例には恰好のものであらうと思ふから次に記して見やう

讀者は十一日夕刊にて『悪少年の放火』と題したる一項を讀みたるならん此放火少年義雄を伴ひて堀留分署へ自首し出でたる其親大澤松五郎の心こそ察するに餘りあれ此父松五郎には妻つね(三十一)との間に長女しげ(四十一)長男義雄(二十一)を頭に四人の子供あり夫婦とも一眼にて按摩を業として辛くも糊口し居るが二人とも實直者として客の信用もあり又義雄は不良少年の常なる繼しき親の間に育るとは異なるに如何にして斯の如き毒血を其全身に漲らするに至りたるかと探り見るに彼は三歳の時腸を患ひ醫師は全癒する迄食せしむべからずと命じた

るが子供の事とて盗みても食ひ度く其都度親よりは厳しく叱責せらるゝより遂には父母の不在に乗じて燃ゆるが如き食欲を充たし居たるが父母は飽く迄全治させ度さに強ひて心を鬼にし漸く全快を見るに至れり而も今にして留へばこれが頑是無き義雄の心に抜くべからざる汚點の印せられたる初めにして是より後彼は自分には人が物を秘すものと思へ僻みて他家より物を貰へば摘食する癖付きたり七歳にして小學に入りしが教育の力も彼が悪性を矯むるを得ぬのみか却て年と共に増長して學校よりの歸途には縁日へ廻りて玩具等を盗み來る事を始め茲に彼が罪惡史は一展開せり八歳九歳となるに從つて益々甚しく親も義雄には氣を許さず財布等は肌身を離ざりしが義雄は熟眠中に乗じて枕探しをやり盗み出したる金を持ちて深更をも恐れず家を飛出す大膽さ天晴れ惡黨の卵とは見られたり其よりは外泊の趣味を覺え魚河岸邊を流浪せる乞食の群に入りて共に惡事を働き巡査に迫はれて彼方の擔下此方の堂に夜を明し窮屈なる親許の生活に引更へて自由放縱なる野天生活の樂しさが

忘れられず屢々家を外に歩き廻り居りしが昨年大
 晦日の夜父が按摩の書出しをなし居るを見一眼の
 父の心付ぬに乘じ後方より覗き込込て其金高と家名
 とを覺え置き先へ廻つて得意客より八十錢を受け取
 り其れを着服して家を飛出したる程の大膽さと智
 慧が付き來り元日の夜附近の軒下に臥し居たるを
 隣人に認められ宅に伴ひ來れるが又もや二日家出
 し深川不動へ赴き遊べる子供を捉へて活動寫眞を
 見せてやるからと言葉巧みに誘ひて公園の物林し
 き處へ伴ひ行き懷中せし十三錢を墓口と共に奪ひ
 て一目散に逃出し其よりは歸宅せず所々を彷徨せ
 しが遂に十日既報の如く西河岸の富永辰藏方へ放
 火し事の紛れに盗みを働かんとする迄に至りしが
 子供の事として同家の雇人が同人を伴れて父の父の
 許へ赴きありし次第を語りしに松五郎は餘りの事
 に言葉も出て泣いて罪を謝したるが是迄義雄の
 惡所爲より姉しげは學校へ行きても何かと云へば
 友達より泥坊の兄弟と罵られて肩身も狭く親とて
 も忤の不所存より客の信用にも拘はる事多く義雄
 一人の爲に一家は世間に顔出しもならず佗しき日

を送り居たにも又もや放火の大罪を犯せし事を聞
 きたる親心の切なさ情無さ、我身は何となるとも
 儘なれど可愛い子供の行末が恐ろしく又懸念さに
 涙を揮つて最愛の子を警察に伴ひ行きしなりとは
 彼等が親心思ひ遣られて憐れは深し

德育の開発につきて

光藤夫人

野蠻時代と子供時代とよく似通うて居る事は今更
 申述べる必要もない様で御座います。實に子供は
 野蠻時代を表現するものというてもよろしい。身
 體の大きな力の強い方が何でも勝つ。何か言合を
 しても争をしても、すぐ腕力に訴へる。幼少年も
 のが泣いて助けを母なり其の外の人に求めるのは
 野蠻時代の弱きものが強者に打負かされて他の
 強きものに助けを求むると一般實に相似通ふ點がい
 ちぢるしい。だから子供は餘り細密にキビ／＼と
 干渉するはいけませぬが、又餘りに放任主義でも

困ると思ひます。私共はマ一子供訓練の大綱を握りて其間違ひなき事を確信しました上で何のこともない五人ながら皆一緒に遊ばせておいて其中で無理な事をしたり性の悪い事をしたり。いちぢめたりする時は其事件の大小によりまして相當の罰を施すので御座ます。

三つ兒の魂六十までとは實に穿てる鉄言である。よし中途にして改心して悪人の善人になりたる談はあるが、矢張丸きり變りましたのではなくて、只何かの動機により三つ兒の魂に戻りしものではありますまいか、實に梅檀は二葉より香ばしいとかア、德育の基礎換言すれば其人一生を通じての人格の基礎は已に已に其の三つ兒の時に其の種子を播かれたものではありますまいか。

私は五兒を時々、研究的に觀察しますと種々な事を發見いたします。其の大體を申述べますれば長男は生れ落つるとすぐ母親の暖かき懷に抱かれ格別初子の事ではあり、眞に満腔の愛情を與へて育てました。百ヶ日を過ぎると學校の方へ出ますので祖母の手にはぐまされて、子より可愛いといふ

愛情を注がれました。下女に預ける年頃になりますと、間もなく幼稚園に通ひました。殆んど無教育な下女などに久しく接する事なしに、今日に至つた故か、極すなほで、反動とかスネルとかいふ様な惡徳は少しもありません。いたづら盛りの事ですすからづいふん惡戯もしますが、訓戒されますとすぐ改めますが、長女の七歳になります生れ落つると下女の手を抱かれました。私の學校通ひの留守には下女と共に遊んで居りました。性質も無論あるでしようけれども、ドウも無教育な下女風情に多く接して其感化を受けたものかスネルよく泣くよく怒るとか卑劣な根性がよく現はれまして、之が矯正に力を盡しますが、まだ中々思ふ様になほりません。其の變り物事に敏捷で物覺えのよい事は長男の及ぶ所では御座いません。三番目の子はモ一よく太りました一時に七椀位も平けて五歳の兒童大人のおとがひを解かせるといふ事もありました中々他の兒の比では御座いませんが性質は至極温順な方で且數の觀念に乏しいので馬鹿ではあるまいかと心配しましたが、種々智徳の

發展につとめました故か、今日では大方普通の子
 に違ひありません。天性とでもいふのですか人の
 よい事は目立つ程で自分から兄弟の外の子をおい
 めるといふ様な事はありません。四番目の子にな
 りますと丙の午の歳に生れましたから皆々屹度ハ
 ネ馬に違ひないと笑つて居りましたのが誤らず實
 に馬見た様な荒い性質がほの見えます。
 末子は生れてより、學校をやめて育て上げた故か
 少しも、まがらず、くねらず、いたづらもづいぶ
 んしますが止めればすぐやめるといふ風でいちが
 わるいといふ點が御座いませぬ。
 同じ血を受けし五兒が皆其趣を異にしたして
 居ります。之は無論教育の結果でも御座いませう
 が一つには氏より育ちの反對で育ちより氏といふ
 事が大きな原因ではないかしらと自分は觀察いた
 して居ります。
 此の幼兒を毎日抑へず、おだてず、眞面目な
 紳士淑女に育て上げたいものであると苦心して居
 ります。私は今更ながら母の感化が偉大であると
 いふ事を恐れるのであります。私如き長所よりか

短所の多い人間の感化を受けたら子供がどんなに
 なるかと思へば一日だとても我儘な心は出されま
 せん。一時だとても勝手な振舞は出来ません。慎
 み恐れて眞に子供の將來の祝福を祈るこそ母とし
 ての務が盡し得られるのであると、是を實行して
 始めて心が安まります。
 母の感化の偉大なる實例
 世界の偉人ジョージワシントンに讚する人があ
 りますならば先づ其の母を知るべきではありま
 すまいか。長い戦争の結果多くの人に推されて
 大統領に上りて人生の榮達を極めし曠古の偉人
 の母は當時何事をして愛兒の世に比ひなき顯榮
 を喜ばれましたか。我が懐に育て上げし幼子は
 今や思ひ及ばざりし富貴を一身に集めて、萬人
 の尊敬を受くるの身となりました。普通の母で
 ありましたならばどうなさいますか別にのべる
 必要はありません。ア、其時其當時は其の母
 は住み馴れし片田舎に相もかはらず麥を作りて
 バンの材料をば得つゝあられたではありません
 か。人が往いて其令息の今日の榮達を語り少し

立派な生活をなさいますと進めますと母君は答へて

ア、我が兒は長き戦争をしてずるぶん疲れた事であらうと存じます。今皆様のお蔭で戦に克ち高き位にさへ上りましたと聞きましては眞に心づかひが多い事であらうと思はれます位、貴ければ其れに伴ふ心盡しも一層であらうと存じます。どうか少しでも政治の暇を得て此郷里に静養する事がありますれば、多くのパンや料理の材料をドツサリこしらへておいて澤山馳走して彼れの勞多き心身を慰めてやりたいと思ひまして毎日こゝして働いて居りますと

ア、何といふ健全な母君で御座います。何といふ質實な御氣性で御座います。此母にして此子ありでは御座いますまいか。世の虚榮の夢にあこがれて娘時代には親御の出世を鼻にかけ妻となりては、良人の地位を利用して、出來得る限りの贅澤に浮身をやつさるゝ當今の奥様お嬢様に此偉人の爪の垢でも煎じて上げたらばと

つい餘計な心配も出るので御座います。

之を見ても子供の徳育を云々するものは先づ其母

の人格を高くするの必要があるので御座います。

母にして性格が劣等であれば其兒の將來は思ひや

るべきで御座います。さうで御座いますからどう

しても母自身に努力して其の智徳を高むると同時に、子供に好感化を與へるの工夫をしなければな

りません。

周囲の感化

子供の接するもの、見るもの聞くもの皆其の心身に影響を受けるので御座います。近所によい子供

が御座いまして、一緒に遊べばこんなよい事は御

座いせんが、よい子ばかりはありせんので、

モ一出來得る丈外様の子と遊ばせる事を禁じて居

ります。之は教育上どんなものかと實は懸念いた

して居るので御座います。此善惡混合のひどい東

京ではマー門戸を閉づる方がと存じて餘り外に出

す事をいたしません。これは皆様が大方ソンの様

で少しよき生活さるゝ中には大抵一人では出され

ませんが、これは私の考へでは大層残念に思ふの

で御座います。田舎見た様に廣漠たる野原で他様の子供衆も一緒に思ふ存分遊ばすといふ事が出来れば、誠に結構でふいますが、斯な小さな家庭に閉籠て活氣を抑るといふ所謂箱詰主義にでもする様な仕方は誠に子供の心身の發展を阻害しはせずやと憂ふるの餘り私はモローモロー出来る丈ゾロ／＼と田舎らしき所に連出して活動さして居ます。

寄綴の仕方

上村百代女史談

賢明の譽の高かつた英國の故ピクトリア女皇は皇女方に技藝をお學ばせになつて之に因りて賞銀を得ることの如何に至難なるかを味はせると申すこととであります、近頃日本では女子の技藝教育が非常に進歩して参りまして各種の工藝が各階級の婦人間に流行して居ります、併し此技に因て相當の收益あるまでに上達する人は幾人ありませうか、それはなかくむづかしいことであります但し、假令それほどの技倆を有するには至らずとしても一ツ

の技藝が身に附て居りませば其人の一生には大變な便利であります、唯之を學ぶ事が
▲流行を趁ふ一時の虚榮の二ツに終らぬやうに致したいと思ひます、尙ほ一層進んでは自分の學びました事が一家の經濟上にも利益するやうになりませば誠に結構です、それ故私は何なりと未熟な身に及びますことを御話するのは厭ひませぬが、何分にも手先の業は紙上で説明しても御了解にはなり悪からうと思ひます、併し折角の御尋ね故家庭の主婦に取つて最も必要な「カケハギ」の四五種を申し上げませう
▲縮緬や絹布に横裂がしたとか或は裁ち間違ひをしたとか或は洋服に鍵裂をしたとか申す場合に與様方が御自分でお繕ひなさることが出来ましたら大へんに重寶です、それに反して一々之を商賣人の手に掛けましては急の間に合はぬのみか非常に高い賃銀を取られます、勿論綴物と申すことは普通學校の裁縫科でも教へますが本來は縫宿師の仕事で、裁縫教師の教へますのは、獨特の技倆を以てしますので、所謂縫宿師のする綴物の仕方と

は少し違ふやうに思ひます、最初に寄際のことを申しますが其前に

▲釜糸の燃方 を御話ませう、普通素人がなざるには地質の糸をほぐして遣つても宜い釜糸を燃つて御遣ひになれば尙ほ宜いのです、釜糸は俗にネグリと申しますが一體釜糸は七本或は五本の菅糸を合せて出て居ります、それを一菅宛に放し、二本の菅糸を燃り合せて用ひるのですがその燃方は最初釜糸を一尺六七寸の長さに鉄にて切り疊に掛釘若くは錐のやうなものを刺しそれに糸をからげて引張り一菅宛に分け要らぬ分は手より放ちて片寄せ二菅だけを引張つて一本の糸を口にくわへ一本の糸を左右兩掌の間に入れ、右方の掌を下にさげて五ツばかり燃り、燃れた糸は口にくわへ、一方の糸を前と同じやうに燃り、二本を平らに引張つて逆に(右手を上にあげる)六ツほど燃つてたるみなき様よく引張り掌の垢の附きたる處は切り捨て針に通して用ひるので、此釜糸の燃方を知つて居りますと大へんに重寶で、若しも燃り方が悪いと仕上げが綺麗に往きませぬ

さて其縫ひ方は別にむづかしいことはないので、好く其裂目を曲らぬやう平らに合せて五厘置き位に細かく裂目の上下或は左右に縫ひ、裏の方より薄く姫糊を引き、表の方より鑲を掛ける、鑲を掛けるときは縫ひ合はせた上に柔かな紙又は布を載せて其上より當てるやうにしないと不馴の人は飛んだ過ちを仕出します、又縫ひますときも成るべく糸の綾が織方と一致する様に針目を出すのが肝要です、例之ば縮細ならば絞の浮いた處を拾つてすくふ様にすればつまり表の方は絞のひくい處に針目が出るやうになつて、仕上げで仕舞ふと少しも分らぬやうになります、絹布の中でも斜子は一番むづかしく馴れぬ方には手際よく出来兼ねます總じて斯う云ふ細工は仕方を知つて居つてもなかなか巧みには出来ぬものですから上等の御召物ならば矢張り商賣人の手に掛けた方が宜しう御座います、右の様になすつた方がいくら宜しいか分りませぬ(羅紗、セル、フランネルなどの鍵裂を縫ふには絹糸にて宜しう御座います)



此頃の お料理

○鶏卵スープ

鶏卵二個を茹で殻を剥き去りて糸にて程よく切り置き、鍋に一合五勺の湯と大匙に一盃の牛酪とを揃ひ入れ、食鹽と胡椒にて味を附け匙にて攪き混たる後前の鶏卵をも入れその沸騰するを待ち皿に移して、焼きたる麵麩の賽の目に切りたると、香氣好き青味を添へる。

○牛肉シチュウ

牛の上肉一斤を小き鶏卵大に庖丁し（厚さは四五分）澤山の水と共にシチュウ鍋に入れて文火にかけ、約一時間半ほど煮て浮き上りたる滓を揃ひて去て、胡蘿蔔一本、馬鈴薯五六個の皮を剥きて適宜に庖丁したるを投じ、大匙一盃の食鹽と、少量の胡椒の粉を加へ、尚ほ牛酪餛飩粉を大匙に二盃つゝに混交したるをも加へ、鍋蓋をなし文火にかけ、一時間ほど焦がさぬ様に煮て皿に盛る。

○オムレツ

牡蠣を水にて洗ひザツと空煎をして細かに切り玉子二ツを井に割り入れ箸にて能く溶き右の牡蠣を交ぜ鹽と胡椒とを入れて程好き味としフライ鍋にバターを少し溶し玉子を一時に入れて手早く箸にて掻きまはし上面が半熟になりたる時片方を折重ねて皿に盛る。

○ビーフライスカレー

牛肉(並肉)を三分位の賽の目に切つて置くのです。人参も又二分位のさいの目に切つて、水にはなして置くのです。バターを鍋に入れ火にかけ、とけましたら、此賽の目にきつた牛肉を入れて汁の煮干る迄いりつけるのです。夫からカレー粉を入れてよくいためましたら、スープをさしてスチウ鍋に此肉ごと入れるのです。之と同時に前にきりました人参や又玉葱を細かくたゞきましたのと鹽を入れて、凡四五十分間煮ましたら馬鈴薯の皮をむきおろしましたのをに入れて、又二十分間位煮ましたら牛乳を少し入れて、鍋を火の上から下ろして飯のうへにかけて出すのです。此分量は牛肉百匁にバターが食匙一杯カレー粉が同じく一杯、人参の切つたのが凡一合位にスープが三合、鹽が咖啡匙に一杯、馬鈴薯の申位のな一個牛乳が食匙に一杯、玉葱が半個でよからうと存じます。

○チキンライスカレー

カレーの分量は雞鷄一羽、玉葱三個、林檎一個、牛酪三盃(大匙に)スープ三合、カレー粉メリケン粉各一盃(大匙)に食鹽一盃(小匙)なるが、先づ一羽の雞鷄を常の如くこしらへて精肉ばかりを賽の目に切り次に玉葱と林檎とを細に刻み、煎鍋に一盃(大匙)に牛酪を溶きて烈火にかけ、その沸騰したる中へ前の三品を投じて程よく煎り付け、之を蒸鍋に移してスープを加へ、文火にかけ四十十分間ばかり煮たる後、カレー粉メリケン粉及二盃(大匙)の牛酪を混交し、徐に三十分間ほど煮て食鹽を加へる、斯くして柔に炊きたる飯を皿に盛りカレーを好き程かけて温き内に供す。

○越後漬あちやら

大根を縦に打ちて鉢に入れ、鹽を加へて手にてよくもみ、鹽を洗ひて堅く搾り置き、茹でたる糸蒟蒻の二寸程に切りたると、油揚

豆腐の細き木口切にしたるとを鯉煮出汁、砂糖、醬油にて淡味に煮冷まして前の織大根に混交し、上より、橙醋をかける、材料の分量は大根七、糸蒟蒻二、油揚豆腐一の割合にてよるし。

○海鰻茶碗むし

海鰻を裂き骨と腸を除きて横より數本の金串を打ち、中火に架けて魚がさわね様に両面を焼き、串を抜き去り五六分の木口切にして淡味に煮たる小椎茸、蒟蒻三葉と銀杏と共に蒸し茶碗に岡盛して、溶きたる雞卵二個煮出汁一、醬油三分一を混和して茶碗へ七八分目に加へ、蒸籠にかけて雞卵の稍や凝結まるまでに蒸す。

○魴鱗けんちんむし

魴鱗の鱗を去り腹を開き腸を除きて水洗をなし、三枚におろし薄骨を去り骨拔器にて小骨をぬき去り二分間ほど鹽水に浸して、布を敷きたる枠の中へ皮目を下に一側並べとなして、上より煎り豆腐を詰め、布を折りかけ押蓋をなして暫時押をかけ、魚肉の方を上に蒸籠の中へ据へて程よく蒸し上げ、冷却してから枠を去りて適宜に庖丁す。

○茹の薑甘煮

薑の薑三合ばかりをよくこしらへて水洗をなし、水と共に鍋に入れて中火にてざつと茹で、茹湯を去て新らしき水を入れかへて茹でる、斯くすること三回にして茹湯をしたみ、鯉煮出汁二盃、味淋半盃、醬油半盃の汁を蓋ふ程入れて煮汁の半は詰まるまで煮る。茹の薑は苦味の全く脱けぬを度として茹るがよろしい。

○蟹の丹波煮

蟹の鮮しきをざつと茹で、その肉を掘出し置き、玉葱一箇を細に刻みて胡麻油を引きたる鍋にて蒸り倒し、少量の胡椒と、鯉煮出汁、砂糖を程よく加へ、前の蟹肉を混じて一沸したる後醬油をさ

し、味を試みて小鉢へチヨンボリ盛る。

○蝦柚子おろし和へ

さえまき鰻をざつと茹で、頭と殻を去り背腸を除きて殻に切り置き、大根(おろし)を水に洒して布にあげ、堅く搾りて鉢に移し、布にて漉したる柚子汁と少量の醬油を加へて、鰻とおろしを等分に和へ交せる。

○鱈の山葵醬油

鹽鱈を一日一晩水に浸し沸騰したる湯の中に入れて充分に茹で其肉を細かくして皿に盛り山葵醬油に揉海苔、七色唐辛を薬味にして食す。

○蠣のドラ鍋

土埴鍋は鍋燻の一種で蠣を目簾に入れたまゝ水で洗ひ、貝殻の除れるまで搾り、漬れない様にして引き上げ、水氣を去り鍋には縁より少し高い位に白味噌で堤を築き、其中に割下を注ぎ蠣を少し入れて追々土手を壊し攪ぜて食べる。

此の割下は普通のより薄く甘くして用ゐるので、二番出し一合に味淋三勺醬油一勺、砂糖盃一抔の分量が適當である。

○寄せ鍋

白身の魚を小さく殺ぎ、葱姑、百合、新菊、椎茸等をそれ々々鍋に盛り割り別の鍋に割下地一合に二十分の一の醬油と煮切りみりん十分ノ二を入れて一度火にかけて、冷えた時前の鍋に入れる。

○柳川鍋

鱈を鰻の様に入れて骨を取り、さゝかま牛蒡を水に洒してアケを去り、沸騰湯の中に五分間程入れて引き上げ水氣を去り、土の二重鍋の上の方に敷いて、其上に前の鱈を並べトロ火にかけ煮立つた時卵を其面に流し半熟位の頃に鍋を外し、蓋のまゝ下鍋に湯を入れ重ねて出す。

割下はみりんと酒とを等分にして少量砂糖を加へあまり色のつかぬ位に醬油を入れる。



智恵の 種 子

最も新奇な遊戯

英國では近頃石鹼玉で種々な遊戯を演ずるとが流行つて参り、これが爲めに俱樂部杯も組織されて居りますが、兒童の遊戯としては至極面白い趣向と思はれますから左に紹介します

▲遊戯の用具 先づ石鹼玉の遊戯に要する設備の事からお話すると、第一に大きな卓子をラバー製の敷布を以て蔽ひます、これは卓子が石鹼水の爲めに汚損されない用意であります、次に一個乃至二個の麥藁の管と、一個のクレーパイプと、大きな異ふ一個乃至二個の漏斗と、細い針金製の輪とが要ります、この遊戯の藝當の旨く行くと行かないとは、専ら石鹼の液の出来加減に因りますのですが、其石鹼液を旨く調合するには先づ微温い水を鉢に取つて善い石鹼を其中に溶かして居りますと其内に粘りの強い泡が出来ます、この石鹼の泡を匙で抄ひ取て出来加減を試験するのであります、最初に先づ直径一時大の石鹼玉を試に吹いて置て、豫め石鹼の液で濕した指を以て其玉に觸つて見て、若し其玉が潰えなかつたなら夫れで遊戯の用に立つてです、又若し爛つて見て潰える様であるなら石鹼をもつと融かして粘を強くするのです。

石鹼の液の準備が出来たならば、決して其泡をかき混ぜてはなりません、若し其れをかき混ぜ様ものなら、決して面白い立派な光

景を見ることは出来ません、この石鹼玉の遊戯を面白くするには、最優等者と最劣者とに褒賞を與へる杯も、一寸面白からうと思ひます、よく兒童が石鹼玉を吹いて、虹色が出たの、いや饒の玉は大いぞ杯と云つて喜びますが、英國の石鹼玉俱樂部の遊戯は中々あんなものでない、餘程面白い藝をやつて居るのでありますが、勿論それには随分手練が要るのであります。

▲半熟玉子の遊戯 先づ手解きに宜しい遊戯は『半熟玉子』と云ふのであります、それは硝子板の面に石鹼の融かしたのを少し零ぼして、麥藁の管を以て板面に恰好な半球形の泡を造る、別に煙草の泡を取つて置いて、更らに麥藁管を泡の中に突込んで半球形の泡を重ねて作つて、其中には空氣の代りに煙草の泡を充たすので、そうしますと、虹の七色を以て輝々光る大なる半球形の中に、美麗な白い容易に潰へさうにない半球形の泡を現はし、宛然半熟の卵の形を呈するのであります。

この『半熟玉子』を造るには、手と目を確り据えることが大切で、第一の半球形を吹いて第二の半球形を造るとき、麥藁管を抜て更らに其管を差込むには、思ひ切つて落ちてやらねば旨く行きませんこの技術が上手になりますと、二重の泡どころでなく極上手な人は最初の玉が潰へない中に、結局十二も重ねることが出来ると思ひます。

▲種々の花形 次に出来易いのは花の上に石鹼玉を見はす遊戯です、其方法は先づ花に石鹼の液を塗つて置くことが肝腎です、これをして置かないと、花の上に巧く石鹼玉が吹けません、普通の石鹼玉でも、烟入りの玉でも、花の裝飾に用ゐることが出来ます、若し其の石鹼の液の質が善く粘着力が強かつたならば、第一に吹いたの、消へない中に、十二乃至それ以上の『石鹼の花』を咲かすことが出来ます。

▲針金の輪で圓筒形 次に針金の輪の藝ですが、これも却々旨く行きます、それは硝子板の上に普通の半球形の玉を造へて置て、

其石鹼玉の外表面と容易に粘着するだけの引力ある石鹼液に濕した針金の輪を以て、半球の泡を引き伸ばすと圓筒形が出来ます、又パイプを以て先づ石鹼玉を空中に吹いて置いて、石鹼を塗つた二個の輪を以て、其玉を引き伸ばすと、桶の様な形になります、楕圓形の石鹼玉を作るには、先づ針金の輪をば石鹼液に濕して、其輪の中に液を廣げて、其れがれ葉の管を以て吹きますと、二個の石鹼玉が密接して恰も圓にある様な楕圓形になります、技術が追々上手になると、この外に、自由に花を或は咲かせたり、或は凋めたりする藝や、又石鹼玉の中に車を廻らす等、種々の遊戯が出来ましたり、又は石鹼玉の小さな像や、其他の裝飾物に石鹼玉を吹かしたり、注意すべき點 是等の石鹼玉の遊戯を試る者の忘れてはならぬのは、遊戯に用るパイプ、漏斗、麥藁管等をよく濕して置く事です、若し乾いた儘のパイプや麥藁管を吹いて石鹼玉を儘へやうとしても、又は乾いた板面の泡を他に移うとしても、其玉は屹度壞はれて了います、素人が巧手にするのを見て、ナニ譯はないと思つて試つて見ると功く行かない、其失敗の原因は是等の點に在るのであるから、最初からかゝる秘訣を漏らさない方が、却つて遂戯に興を加へて面白いのかも知れません。(完)

一人前の消費

▲米は日に三合宛 内地産の米が約五千萬石輸出を差引ると日本で消費せらるゝ米は五千五百五十萬石、之を割當てると一人一日の量が三合になる之は勿論酒にする部分も含んで居る

▲酒は各戸で晩酌一合一匁 清酒は内地で四百萬石造つて六千石輸出する外國からの飲料は百萬圓位であるから之を差引くと一人が年に八升飲む事になり、一家では四斗であるから各戸で晩酌をするとせば一合一匁宛となる夫で毎晩國家の爲二錢二厘の奉

公をして居る譯である。

▲麥酒は年に大樽一本 内地醸造の麥酒は年廿五萬石で外國へ出る者は三萬石、大分行はるゝ様になつたか年に四合四匁で月に割と一人で四匁しか飲んで居ない、

▲砂糖は一人で年八斤 大日本精糖で培へる製糖力が三億斤内外で横濱神戸の兩精糖のものを合すと年四億三千萬斤以上にもなる夫に我邦の精糖消費高は最近數年の平均で二億三四千萬斤、之を人口宛にすると一人で五斤しかない、砂糖の消費で文明の程度が判ると或者は云つたが、夫かと云つて日本の文明が五斤であるとは云へない内地産の粗糖が八千萬斤あるから是位は消費して居ると見ても差支なからふ日本の文明は先づ八斤位の處か

▲一人の煙草が年に卅匁 内國の葉煙草が千二百萬貫内百萬圓の卷煙草と六十萬斤の葉刻其他を輸出する又入つて來るものもあるから概略の所を示すと一人年三十匁位になる

▲醬油は一人で年四升 醬油は二百七萬石であるから斯様な勘定になる。

▲鹽は一人で年に二十斤 内地産の鹽は十億斤輸出が二千萬斤輸入が二百萬斤一人宛は年に二十斤位となる。

▲一年の肉食二百匁 一年中に人の口に入る牛が十六萬頭三千九百萬斤、馬が七萬頭千二百萬斤、豚が十三萬頭一千百萬斤合計三十六萬頭六千二百萬斤一人が一年に食ふ肉は二百匁位となる

▲石油は一月一晩七匁 内地産の石油は百卅萬石であるが石油の消費額は年二百萬石と稱せらるゝから各戸に割當てると一晩一匁七匁しかない夫も其筈であらう今でも山間へ行くと一月に二合位使つて居る様な家が二分進んだ方に屬する様な處があるから

* * * * *

雜 錄

●幼稚園制度改正に關し帝國教育會は小學校施行規則中幼稚園に關する規程中左の通り改正せられんことを希望する旨其筋に陳述することに決定せる由なり。

- 第一條 幼稚園に園長を置く園長は園務を督理し所屬職員を統督す
- 第二條 幼稚園に保母を置く保母は兒の保育を掌る
- 第三條 幼稚園に女子を置くことを得、女子は保母の職務を助く
- 第四條 保母は小學校の本科正教員たる資格を有する者又は保母免許狀を有する者たるべし
- 第五條 保母免許狀を受くるには保母檢定に合格することを要す
- 第六條 保母免許狀は保母檢定委員の檢定に依り地方長官之を授與す
- 第七條 保母檢定に分ちて無試験檢定及試験檢定とす
- 第八條 檢定の科目及其程度は第八十一條の規程を斟酌して地方長官之を定む
- 第九條 前條の外檢定に關する規則は地方長官之を定む
- 第十條 保母檢定には手数料を徴收することを得
- 第十一條 園長及保母の進退并に俸給旅費其他諸給は小學校正教員の例に依り女子代用教員の例に依る
- 第十二條 保母免許狀の失効及剝奪に關しては小學校教員免許

狀の例に依る

- 第十三條 園長保母の服務及懲戒に關しては小學校教員に準ず
- 第十四條 幼稚園の幼兒數は百二十人以下とす但し特別事情あるときは二百人迄増すことを得
- 第十五條 保母一人の保育する幼兒數は四十人以下とす
- 第十六條 幼稚園の設備に關しては小學校の例に依る

○前項記載の通り過般帝國教育會にては幼稚園規則改正に關する意見を發表せる由なるが之に就きて文部省松村普通學務局長の談話なりと云ふを聞

くに
元來幼稚園制度を改正し全國に涉りて統一的の施設を爲さしむることは文部省に於ても其の必要を認め昨年來調査中に屬するを以て他日具體的成案を發表するに至るべし其の要點は(一)幼稚園其者の經營施設の改正(二)保母の資格其の檢定待遇、並びに懲罰等に外ならず幼稚園の組織に關しては現今のものゝみにて満足すべからざるは勿論將來は彼の歐米諸國に於ける託兒所の如き多少形式を異にする種類を追加するの必要あるべし即ち此の託兒所は貧民の子女を收容し一面幼少の時季よりして善良なる感化を與ふることを得べきを以て貧

民子弟の教育上多大の貢献ある而已ならず他面に於ては父兄が労働に従事する妨礙を除去し安心して其の業務に精勵するを得しむるの利益あるべきを以て是等も幼稚園の一種として取扱ふの必要あるべく目下調査中なり次に保母に關しては小學校本科正教員の資格を有するものと府縣道長官の認定に依るものと二種ありて小學校教員の資格あるものは昨年來判任官待遇とし月俸の如きも最低十圓より最高七十五圓迄を支給しつゝあるも今後若し此資格あるもの以外より採用する場合に又之に對する適當の條件を追加し此の條件に適合するものは有資格者同様に待遇に爲すべく其の懲罰に關する規定も追加するの必要あらんも目下調査中に屬し未だ具體的の成案なしと。

○伯林の子守

一度伯林に遊んだものは所謂伯林の子守といふのを見て奇異の感を起さぬものはないでせう、日曜日に公園を散歩すると紳士や婦人が手を取り合つて散策を試みて居る其間に面白い賤のある袴を穿

いて上衣は前で釦を止め之に首から腹部へ掛けて花模様の飾を附し頭部には見るから重さうな帽子と云ふよりは胃の様なものに被つた一見人の見立つ服装の婦人が乳母車を押して其處にも此處にも歩いて居ります此の子守の婦人は伯林の近在に住んで居るゴテン人種で日本で云ふと平家の落武者と云つた様な種族ださうです此のゴテン人の子守は給料も高いが其代り小兒を育てる事の間にか特有の看護法でチャンと矯正して終ふと事です實に彼等は先天的に育児法を知得して居るといつても好い位で伯林の家庭では多くは此子守を雇ひ育兒の事に注意を加へてをるといひます我國の家庭でも子守の撰擇には最も注意を注ぎ度いものです。

○珍らしき同窓會 去月六日東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て珍らしき同窓會が開かれた。それは去る明治三十年に同園を保育修了したるものにて目下高等學校、商業學校等に在學中の青年等申合はして昔幼なじみの回想談を試みんと

ての催しなりき。

當時の同窓の幼兒廿五名中其後轉居死亡等の爲め多少移動はありたれど當日の出席は十三名の多きに達し、久し振にて無雅氣なる談話に花を咲かせ、たわいもなき遊戯に興をたかめて新春の一日を觀樂の中に過せる由、面白き會合なりと云ふ可し。當日出席者の氏名を記せば左の如し。

- | | | |
|------|------|-------|
| 伊藤英三 | 畑 | 堀内堅太郎 |
| 大塚武夫 | 米田俊良 | 田代信徳 |
| 武井守成 | 高馬覺三 | 黒川勝俊 |
| 山田剛一 | 藤村泰三 | 坂倉富太郎 |
| 守田豐藏 | | |

玩具研究部記事

本會玩具研究部は今般左記の如く規則を制定し來月より實行することゝなれり。會員中篤志の方は部員として盡力せられんことを希望す。

玩具研究部規則

一、本部はフレーザー會玩具研究部と稱し會員

- 中の篤志者を以て組織す
- 二、本部は教育品としての玩具を研究し其改良發達を計るを以て目的とす
- 三、本部は前項の目的を達せんために左の事業を行ふ
 - 一、玩具の研究報告、討論、雜誌
 - 二、新案玩具の批評鑑定
 - 三、新案玩具の試作配布
 - 四、玩具に關する講演會の開催
 - 五、玩具に關する圖書の出版
- 四、本部は前項の目的を達せんために毎月一回(第二土曜午後二時)より常會を開く
- 五、本部員たらんとするものは現在部員の紹介に因り常會の承諾を得可し
- 六、部費は別に徴收せず但し必要あるときは隨時其實費を徴收することある可し
- 七、本部に主事を置く。主事は本會主幹の指名に因り其指揮を受けて部務を掌理す可し
- 八、本部に於て必要なりと認むるときは本則以外別に細則を定むることを得

右本則第八項に因り本會玩具研究部賛助員規定は
今般左記の如く改正し來月より實行することゝな
れり。尤も既に前金拂込の賛助員には其前金の盡
くる迄別に郵送費を申受けず前規定通り取り扱ふ
ことゝせり。

一、試作玩具配布規定

本會玩具研究部の試作に係る新案玩具の配
布を受けんとするものは本會玩具研究部賛助
員と稱す。

二、本會玩具研究部賛助員は一ヶ月玩具代一口
に付金四拾錢郵送費金拾錢を申受く可し。但

し東京市外は半ヶ年分以上の前納を要す。

三、本會玩具研究部賛助員たらんとするものは
住所姓名並に配布口數を指定して直接本會事

務所へ申込む可し。

四、本會玩具研究部の配布せる試作玩具に關す
る説明は毎月本會機關雜誌『婦人と子とも』

紙上に於て發表す。

賛助員にして雜誌の配布をも希望する、方は
別に雜誌代一ヶ月金拾錢半ヶ年分六拾錢の前

納を要す。
以上

右の改正が從來の規程と異なるところは申込者の要
求する子供の性別及年齢に應ずる所の配布を廢止
し單に本會の試作に係るものゝみを配布すること
としたることとなりとす。是れは過去八ヶ月間の
經驗に因りて現在坊間に在り觸れたる玩具は悉
皆研究するの便宜を得て最早在り觸れたるもの
を強ひて研究材料とするの必要なくなりしと共
に一方には賛助員中にも坊間に販賣し居るものゝ
配布を受くることを好まれざる方々などありて面
白味少くなりたれば此際斷然之を廢止することゝ
なせるなり。

今一つの改正は地方郵送費の請求なりとす。是は
最早然のみは費用を要せざる可しとの見込にて實
行に取り掛りし處事實は豫想に反して多分の荷造
費及送料を要し爲に本會の損耗を招く場合頗る
多かりし故今回斷然之を各賛助員に要求したる次
第なり。地方賛助員諸君は此旨御諒察ありて引き
續き本研研部の事業を翼賛せられんこと希望に堪

えす

二月分配布玩具の中説明

○スノイルゲール 定價未定

是は渦巻の外の一點より賽獨樂を回はして出た數だけづゝ進んで早く中心の一點に達したものが勝なのです。甘く終の時に都合よき數が出なかつたらば一番初めの出發點に後戻りして又振り直して進むのです。それから今一つの約束は先きへ行つて止まつて居る人の所へ後から行つたものが止まる様でしたら先の人又は一番最初の出發點迄逐ひ歸されるのです。斯様にして誰が早く中心には入るかお慰みです。併し是は賽と云ふ賭博的機械を用ふるので教育上決して奨勵す可き遊戯ではありません。幼兒の快情を維持する爲めの娯樂的玩具としては誠に恰好なもので物を賭けさへしなれば決して害にはなりませんから其御積りて御使用下さい

定價未定

○城攻め 定價未定
是は城の中に二人の士官を置き他の二十四人の兵

士は外の點に並べて一つ宛點を進みながら城の中へ侵入して士官を動けなくさせたならば兵士の方の勝です。士官は進んで來た兵士のそばへ行つて其兵士を飛び越すことの出來る様な時があつたら直に飛び越して其兵士を捕つてしまふか又は城の入口にがん張つて兵士の入れぬ様にして何うしても詰められなければ士官の方の勝です。昔から行はれた十六むさしや詰め將基の様なものです。

定價未定

○恩物ごま 定價未定
是は六個の木制獨樂で、別に打ち抜いた圓形色紙が添へてあります。先ず最初は保姆又は母親が適宜に二色位をこまの面へはり合せて子供に與へて指先で回はさせるのであります。二色の速かに回はり行く爲めに間色が出て面白いです。斯くして貼付けたものが六つになつたらば之を一人で回はさして初めのが倒れぬ中に六個残らずを回はさせると面白いです。子供に回はすことの出來ない中は保姆なり母親なりが回はして遣らなければなりません。少し慣れると幼兒にも容易く回はすことが出來ます。初歩の御物として幼稚園に必

要なものであります。是に使用する色紙は文部省が國定教科書に採用された標準色の夫れに合はした六色と別に黒と白との二色が澤山入れてあります。是れだけあれば國定の十八色は勿論如何なる色も自由に出して見せることが出来ます。即ち赤に白を交せれば桃色となるし黒を交ればえひ茶が出来ます。其交せる度合に因つて種々異つた程度のものが得られます。尙子供が倦きたらば別の色に張り代へて遣るか又は子供自身に隨意な色を貼り付けさせても宜しい。紙が盡きたらば手工用の色紙を買つて適宜に切つて遣はされてもよし。又フレールベル館に御注文になれば何時でも國定標準色に合はせたものが幾等でも圓形に打ち抜いてあります。それで此玩具の主たる教育的價値は色を教ゆると云ふことよりは色の變化の興味に釣り込まれて、幼児は知らず識らず指頭を練習することが出来て漸次に手工製作に導くことが出来るものと眼の鑑色力が練習されて將來の色彩教授の素地を造ることが出来る處にあるのです。眞の色彩教授は幼稚園の仕事ではありませんから此玩

具は色彩配合の理法を教へ様などと云ふ大それた考で造られたものではありません。尤も保姆や母親が色彩に関する智識ある人ならば色彩の理法を教ゆるの道具としても無論使用することが出来ます。殊に子供に逐一自ら實驗させることが出来張り合はせの度合で種々に變化させることの出来る處などは至極面白い處で大人の實驗用にも供することが出来ます。そして何等の機械仕掛も要らず僅に指先で自由に扱ふことが出来ますから一層便利なものでもあります。元來此玩具は昨年女高師附屬幼稚園よりして日本に於ける理想の恩物の一として日英博覽會に出品したもので該附屬幼稚園では一般に恩物として課さうとして居るものであります。聞く所に因ると京阪神聯合保育會でも目下研究中で、中には熱心に一般恩物の中に入れたいと主張して居る人があるそうです。吾人は全國の幼稚園が速に之を使用されんことを希望します。



お伽訓話

不思議な白

昔ある國の片田舎に太兵衛と慈助と云ふ年寄の兄弟がありました、兄の太兵衛は大層けちん坊でお金は勿論何一品でも人にやる事は大嫌ひ只々ためる一方ですが弟の方は其名の通り大變慈け深い心で少しでも可愛憎な人の話など聞くと自分の着て居る着物までぬいでやる事も度々でしたのでだん／＼品物もなくなるしお金もなくなるしお米もへつてとう／＼貧乏なく／＼暮しをするやうになりましたがそれでも少しも不足らしい顔もせず毎日一生懸命に働いて其日／＼を過して居りました。

やがて其年も暮れ近くなりどこの家でも皆お正月の仕度にいそがしく慈助もか

せいだお金で澤山のおかちんをつきまして自分より貧乏で困つて居る人たちに少しづつでも分けてやりました自分たちの分を少しとつて置いたの迄皆人にやつてしまいましたので大晦日の晩兄さんの家へ出掛けて行きました。

大きな立派な石の門を入つて兄さんのお部屋へずん／＼通りますので下女たちは皆びつくりしてだまつて見て居る許り。

慈助「兄さん御不沙汰しましたね處でけふはおかちんを少しいたゞいて行かうと思つて來ました」

といきなり申しますと兄さんは

『慈助お前にも困るねあれだけの財産をなくしてしまうし其衣物はまあどうしたのだい、もうお正月ぢやないかおかちんもつかないとは可愛憎でもあるがほん／＼にいくじがないねおもちも一枚位はやられるがあとはいけな
いよ』

と云つて一枚のおかちんを下さいました慈助はこれを持ってうちへ急いで歸つて

來ますと途中に一人のお爺さんが休んで居ましたが其様子がいかにもくたびれて居るやうなので慈助は

『お爺さんあなたどうなさいました』

とやさしく尋ねましたら

『あゝ私はきのふから何もたべないのでお腹がすいて仕方ないのです』
と云ひますので慈助は今貰つて來たおかちんを出して

『さあ〜今が之ありますから澤山あがつて下さい』

と云ひました其爺さんは喜んで少し許りたべて居ましたが残つたのを慈助に返して云ひますのに

『あなたは實に感心な心懸の方ですから其お禮によい事を教へてあげませう
此木の奥に小人の國があります其國にはお米と云ふものがないのですか
ら此おかちんを持って行くといろ〜の物を出して取かへてくれと云ひます
が何とも取換てはいけません其内に一ツ古い小さい石の臼があるからそれ

ととりかへていらつしやい其曰は何でも自分のほしいと思ふ物が出ますか
 らさあ此からお入りなさい』

と云つて木の根を少しあげてくれましたから慈助は無中でどんくはいつて
 行きました。スルト成程お爺さんの云つた通り小指位の人がぞろぞろ居ました
 がやがて一人の小人が

『おや餅くさい』

と云ひますと皆が『お、餅くさいどこだらう』と云つて慈助の側へよつて來ま
 した其中でも一番えらそうな小人が云ふには

『此國にはお餅と云ふものがないのでぜひ一度皆がたべたいと云つて居た處
 です。何んでも貴君のお望の物をあげますからとりかへて下さいませんか』
 と云つて色々の寶物や金や銀をどつさり出して來ました。慈助はさつきお爺さ
 んに云はれた通り

『私は何もほしくはありませんが此國には少さい石の白があるそうです。そ

れとなら取換てあげませう』

と云ひますと小人達は如何にも困つた様子で皆で何かごちよくと相談して居ましたがどうしてもお餅がほしいと見えとうく取換てくれましたから慈助は大喜びそれを持つて元來た道を歸つて木の根へ出ますとお爺さんがにこくと待つて居て

『お、よく私の云つた事を忘れずに取換へて來ましたね此白はなんでもほしい物が出るのでそれを出すには

『石臼、小白、金の白お米を一升だしとくれ』

と云へばいゝのです。望み次第いくらでも出ます。

と云つたかと思ふとどこへか行つてしまいました。

慈助は急いでうちへ歸りました。そして早速お餅やら小供たちのよそ行の着物やらを澤山だしお米も出して貧しい人たちにも分けてやりました。それから別にお金を澤山出して貰つて家を立派に建ててすることにしました。

慈助が急にお金持ちになつて立派な奇麗な着物を着ても誰もうらやむ人はありませんでした。そして

四四

慈助さんはふだん人を慈深くしたので福の神様が舞込んでいらしたのだ目出度くといつて他人迄も喜んで呉れましたがそれを聞いた

兄さんはさあ氣になつてたまりませんきのふ迄あの貧乏がいくら福の神様が來たつてとても己れの家には及ぶものかと獨りぎめして居ました

さて次の日曜が來て會堂へ行きました處が慈助は云ふに及ばず妻も娘の花子も太郎も三郎も皆立派な温かさうな洋服を着うつくしいポーシをつけ新しい馬車へ乗つて來て居ましたびつくりする兄さんの側へ來て

慈助「先日はありがたうございました御蔭様でどうか年もこせました家も少しは住よくなりましたから御遊びにいらして下さい」

と丁寧云はれますので太兵衛も思はず頭を下げましたがさあくやしくてたまりません會堂の歸り道に早速弟の家に行つて見ますと少し處か自分の家より倍

もく大きい石造りの立派な家に住んで居ますのでびつくりしながら入つて行きますとかねて主人のいゝつけと見え一人の可愛らしい女が出て丁寧以案内し美しく飾り立てた應接間へ通しお茶やらお菓子やらを出して來ました太兵衛は昔弟が來ても何一つかまわなかつたので氣の毒でたまらず小さくなり何扁もおじぎして居ますと弟の慈助が入つて來て

『まあ兄さん早速いらして下さつてありがたう實は其内皆さんを御招ぎしやうと思つて居た處まだ用意が揃はないのでのびて居ました折角いらして下さたのですからゆつくり遊んで庭でも見て下さい御馳走も御望次第しなすから』

と自分が昔苦しめられた事など忘れた様ににこくもてなしますので太兵衛は『慈助さん先達迄はつひ心にもなく氣の毒の事しました之からは又遊びに來て下さい』

と氣の毒そうに云いますので人のよい弟は却て心配しいろいろの繪やら庭へつ

れて行つたり子供たちにピアノを弾かせたり兄さんの好きなおちそうをした
りして一生懸命におもてなしをし歸る時は澤山のお土産を持たせ新しい馬車
を出して兄さんを送らせました。

太兵衛は道々馬車の中で不思議でたまりませんどうしてあんな金持ちになつた
らう。あの位なら昔からもつと親切にして置けばよかつたとそれからは慈助の
家へ始終遊びに行き其度いろく御土産をもらつては喜んで居ました度々行く
内に慈助にどうしてこんな金持になつたのかと聞きますが慈助はいつも神様の
御助だと許り教へませんでした。併しあまり何度も聞きますのでとうく皆話
して聞せました。

太兵衛はどうかして其白がほしくてくたまらなくなりましたがどこにあるか
どうしても分りませんそこで弟に一度其白を見せて目の前で何か出して見せて
呉れと連りに頼みますので慈助も兄の頼みではあるしふだんから極く心持のよ
い人でしたから斷はる事が出来ず或日白を持ち出して太兵衛の前で